

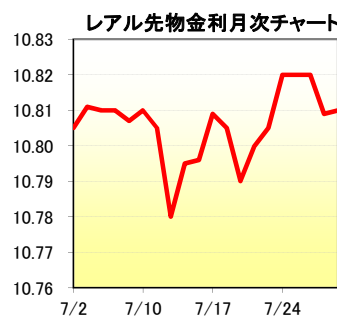
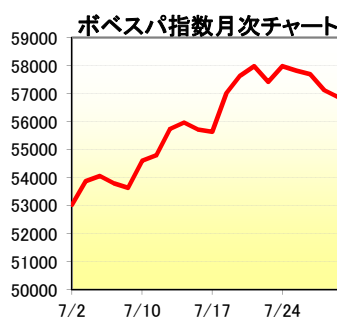
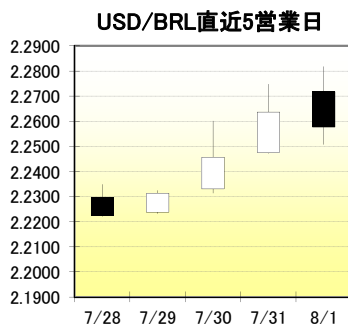
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			7月28日	7月28日	7月30日	7月31日	8月1日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2.2220	2.2310	2.2460	2.2640	2.2580	-0.0060
	USD/YEN	Spot	101.86	102.12	102.80	102.80	102.61	-0.1900
	EUR/USD	Spot	1.3439	1.3408	1.3396	1.3390	1.3430	+0.0040
	BRL/YEN	Spot	45.83	45.77	45.78	45.41	45.45	+0.0400
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1.22	1.17	1.09	1.07	1.10	+0.0290
		1Year(p.a.)	1.37	1.34	1.28	1.24	1.26	+0.0170
	Real Interest	6MTH(p.a.)	10.78	10.77	10.79	10.79	10.85	+0.0567
		1Year(p.a.)	10.90	10.91	10.96	10.96	11.09	+0.1252
Stock	Bovespa		57,696	57,119	56,878	55,829	55,903	+73.46
Bond	CDS Brazil 5y		143.04	146.15	143.04	160.26	162.00	+1.7450
	Global 40		110.750	110.750	110.650	110.600	110.700	+0.1000

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

イベント	予想	実績	前回	安倍首相	日本企業はブラジルに注目している。海底油田の開発やインフラ、造船などの分野で技術面の協力を進める。
FGV CPI IPC-S	0.12%	0.10%	0.16%		
鉱工業生産(前年比)	-0.079	-6.90%	-3.40%		
HSBCブラジル製造業PMI	--	49.1	48.7		
貿易収支(月次)	\$875M		\$2365M		

3. 要人コメント

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場はU\$1=R\$2.2300で寄り付いた。
- 週初は材料難から2.23挟みで推移し、週間高値となるU\$1=R\$2.2220をつけた。しかし、米住宅指標が市場予想を下回ったことを受けて株式市場が軟調推移したことや、ブラジル中銀によるアナリスト調査でブラジルの景気見通しが弱まっていることが確認されたことなどを受けて、レアルの上値は限定的となった。
- 週央にかけては米第2四半期GDP速報値が個人消費や企業投資の加速を背景に大幅改善したことを受けて、ドル全面高の展開となった。さらにFOMCの声明文で「インフレ率が2%を下回り続ける可能性は幾分後退した」と、インフレ見通しがややタカ派ニュアンスにシフトしたことを受けて、利上げ期待からドルが買われた。一方、レアルは2.26台まで売られた。
- 週末にかけてはアルゼンチン政府とホルドアウト債権者との交渉が決裂し、同国債が12年振りのデフォルトに陥ったことで、世界的にリスク資産売りの動きが見られた。世界各国で株価が下落する中、レアルは週間安値となるU\$1=R\$2.2810まで下落した。2.28台は6月5日以来ほぼ2ヶ月ぶりの水準。ボベスパ指数の続落は5日間で止まったが、1週間で2000レアル以上の大幅安となった。
- 米7月非農業部門雇用者数が市場予想を下回り、失業率も悪化すると、ドル全面安となる中でレアルは急反発し、結局U\$1=R\$2.2580で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものです。その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
8/4	貿易収支(週次)	Aug-03	--	--
8/5	FIPE消費者物価指数(月次)	Jul	--	0.04%
8/5	HSBCブラジルコンポジットPMI	Jul	--	49.9
8/5	HSBCブラジルサービス業PMI	Jul	--	51.4
8/5	CNI設備稼働率(季調済)	Jun	--	80.7%
8/6	自動車生産台数(ブラジル自動車工業会)	Jul	--	215934
8/6	自動車販売台数(ブラジル自動車工業会)	Jul	--	263564
8/6	自動車輸出(ブラジル自動車工業会)	Jul	--	24199
8/6	商品価格指数(前年比)	Jul	--	6.65%
8/7	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	Jul	-0.50%	-0.63%
8/8	FGV CPI IPC-S	Aug-07	--	0.10%
8/8	IBGEインフIPCA(前月比)	Jul	0.1%	0.4%
8/8	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	Jul	6.59%	6.52%

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ：2.23-2.30

今週は米第2四半期GDPが予想以上に改善し、FOMC声明文でもタカ派色が強まったことから、ドル全面高の展開で終わるように見えたが、本日発表された7月雇用統計は市場予想より弱く、ややドルが反落しての越週となった。米国指標については最近改善傾向が目立つ。本日の雇用統計は予想を下回ったとはいえNFPは2月以降7ヶ月連続で20万人を越える水準を維持しており、水準として弱くはない。イエレン議長は低金利継続を正当化しているが、政策金利正常化に向けた方向性に変更はなく、金利先高感を背景にドルは当面底堅く推移しそうだ。

レアルについてはブラジルサイドの材料に大きな変化はないが、アルゼンチンの問題はレアル相場に引き続き影響を及ぼすだろう。CDS市場をみると、6月のテクニカルデフォルトの際にはむしろ縮小していたスプレッドが、7月末のデフォルト当日はさすがに急拡大している。ホールアウト債権者は、「考慮に値する提案はない」と表明しており、交渉が難航していることが伺える。リスク資産売りの流れが続けばレアルも下値を試す展開となろう。

レアルは、中銀がドル売り介入規模を縮小するとの思惑から急落した6月初めの水準(2.2910)に近づいている。この水準を抜けると直近安値は2.37台まで飛ぶため、抜けた所では相場が荒れる可能性が高い。また、前回、中銀はこの水準で介入プログラムのロール金額を倍増させ、IOF課税対象期間を短縮するなど、通貨安抑制の取った経緯があり、当局の動向には注目が集まる。

来週は英MPC、ECB理事会、日銀政策決定会合などの主要イベントが続くが、レアルへの影響は限定的と見ている。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものです。その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A Treasury Department